

三條別院のご案内

三條別院に想う

地元を離れ、何度も里帰りするたびに街並みやお店が綺麗に変わっていたり、通っていた三條小学校も閉校してたり、めまぐるしく常に三條は変化していて、夏の始め頃に十一年ぶりに戻ったら改めてやはり人通りや商店はなんだか鄙びた感じでした。

昔は、お盆の時は夜遅くまでお墓参りに提灯を持って行き交う人々がいて、街中は賑わうものだと思っていました。時代の変化とともに、夜は人通りも減り、迎え火の提灯を持つ人もまばらになったものだと眺めておりました。

そんな夏が過ぎ、十月に「三條本寺小路あかり物語」というイベントを、僕がいない間から開催し始めたのを知りました！

実際にライトアップされている三條別院はとても圧巻で幻想的でした。

勝手に、お寺様のイメージは「伝統的な堅物」でしたが、時代に合わせて変化をし、常に日常に溶け込むものでありました。

私事で一年間フランスに住んでおりましたが、街の中心は交通手段の駅ではなく、教会でした。きっとそれは昔から人々の生活に溶け込んでいたのだと思います。

日本も同じように、三條別院は昔から三條の

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjor-betsuin@wing.ocn.ne.jp

人々の暮らしに溶け込んでいたと思います。

そして柔軟に新しいことも取り入れて、年末の「すす払い」と「除夜の鐘」にまさかのドイツのお菓子のシュトーレンをコラボさせてもらいました！

伝統と新しい事を融合させてもつと三條を盛り上げていきたいものですね。

牧野浩久氏（むさしや菓子店）

むさしや菓子店

新潟県三條市本町2丁目9-23

電話 0256・32・1847



▲東京の有名洋菓子店で十年修業し、その後フランスで一年間修業をしたむさしやの牧野さんに、二〇一七年のお取り越し報恩講のスタンプラリーにも協力していただき、すす払い・除夜の鐘に併せて、小さいサイズのシュトーレンも作っていただきました！



○次回の「三條別院に想う」は、木原光威氏（三條別院書道教室「東友会」指導）より

ご執筆いただきます。

御煤払い奉仕団報告

十二月十七日(日)に、毎年恒例の御煤払い奉仕団が開催されました。今年も、西山郷史先生に「真宗における正月―御煤払いについて―」という講題で、浄土真宗における年中行事と御煤払いについて詳しくご講義いただきました。御煤払いというと、江戸城では毎月十二月十三日と日が決まっていますが、正月をお迎える行事の一環として捉えられているそうです。日が決定されていることは、仏教の六斎日(日時を決めて精進する)と関係があり、日常の中に仏教が意外と浸透していて、普段あたりまえに考えている行事などにもかなり仏教的な意味があるということをお話いただきました。また、ある地域では「煤を食べる」習慣があり、本町のむさしや菓子店と協力した焼菓子シューレンはそういう意味で面白い試みだという指摘もいただきました。第十八組の門徒会・推進員会が中心となって、三十年近く御煤払い奉仕団を組んでいたのですが、今年も前日から泊りがけで西山先生の講義を聞き、翌日の御煤払いを迎えました。森田輪番・浄圓寺住職による御本尊・宗祖真向きの御影の御煤払いを皮切りに、第十八組奉仕団・三条別院有志の会・庭講・一般参加者・別院職員・教務所員と総勢六十名近い人数で、内陣や天井・梁など、普段はなかなか手のとどかない場所まで念入りに掃除しました。



御本尊・宗祖真向の御影の御煤払い(右上)
真宗の年中行事を語る西山氏(左上)、菱灯籠も掃除(左下)。

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会を開いております。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。皆様
なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

- ◆日時 一月二十八日(日) 午前十時より
- ◆会場 三条別院 本堂
- ◆お勤め(御命日 日中法要)
文類偈 行四句目下 念仏讚 淘五
和讃 回口 次第六首
- ◎今月の法話講師
照光雅能氏(第二十組照入寺)【第五章】
▲「数異抄」に聞く」をテーマに、各講師一章ずつ担当してお話しいただいております。ぜひ、参詣ください。

◎今月の法話講師
照光雅能氏(第二十組照入寺)【第五章】
▲「数異抄」に聞く」をテーマに、各講師一章ずつ担当してお話しいただいております。ぜひ、参詣ください。

- ◆今後の講師一覧
二月 森田成美(三条別院輪番) (年頭会云)
- ▲三月からは「数異抄」に聞くを継続して定例布教の講師に依頼いたしますので、後日決定します。

定例法話会

- ◆日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より(二時間程度)
- ◆場所 三条別院 旧御堂
- ◆講師
一月 休会
二月〜四月 関根正隆氏(第二十二組長徳寺)
五月〜七月 永寶 卓氏(第十組浄敬寺)
- ▲関根氏には三年ぶりに故郷新発田へ泉岳寺から分骨された堀部安兵衛についてもお話しいたします。

▲永寶氏は出雲崎良寛記念館で館長代理を勤められています。念仏も熱心に唱えたといわれる、越後を代表する僧侶の良寛。「良寛と浄土真宗」についてお話しいただきます。

三条別院公開講座

「地域に開かれた別院」を願いと、本年も下記の通り、公開講座を開催いたします。今年、あのカンジャママタイムがやってきます！

◆五月十九日(土) 三条別院本堂 午後二時～

◆講師 藤倉健雄氏(カンジャマ・マタイム代表) 教育演劇学博士。アメリカ仕込みの本格派マタイム。現在のテーマは笑いと教育の融合。英語教育などに身体芸を応用したユニークなアプローチを開発している。NHKテレビ「おかあさんといっしょ」の身体表現コーナー「パント」のマタイム振付、指導として参加。現在全国で放送中。悩みがあるとインドへ行くというほど仏教にも造詣の深い藤倉氏にパントマタイム・身体・教育・仏教について語っていただく。

その他の講座案内

○別院声明教室(全五回・途中参加可能)

(月一回、午後六時～八時)

二月二十一日(水)、三月二十一日(水)

四月十八日(水)、五月十六日(水)、六月十三日(水)

講習内容 真宗大谷派勤行集(赤本)

講師 中富正純氏(第二十三組福照寺)

参加費 五〇〇円/回

○別院書道教室

(月二回第一、第四水曜日、午後六時二十分～八時)

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

事

月謝 二七〇〇円(テキスト代含む)



随時募集中

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎夏加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講「毎月十三日」

「一緒に別院のお庭を整備していきませんか？」

○三条別院有志の会

月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊(公絵像)をお迎えして、聞法会を開催しませんか？輪番と随行一名でお勤めと法話を行います。

○別院収骨・永代経・申経

「都合に応じて常時承りますので、ご連絡ください。詳細はHPまたは教区報でご確認ください。」

◆◆編集後記◆◆

諸事情で、編集後記を続けて書いているが、お許しください。

以前、児連の先輩から深夜の居酒屋で、「末那識はどこにあるか知ってるか？」と聞かれたことがある。末那識とは、唯識という仏教の一派の中で説かれるもので、人間は目・耳・鼻・舌・身・意という六識以外に、末那識という自我意識と阿頼耶識という深層の識があるという。しかし、どこにあるといわれると分からないので「分かりません」と答えた。すると腹の横を指さし「たまにここがピクピクするんだ。それが末那識だ！」と言いつつと泥酔してしまった。さて、皆さんご存知のとおり横隔膜は、牛肉の部位ではハラミと言われ、目で見てわかるように、膜とはいってもかなり大きな筋肉のかたまりである。そして横隔膜の伸び縮みにより呼吸が行われていることも周知の事実である。末那識(自我意識)は横隔膜に存在し、それがピクピクすることで、その存在を示している？ 私なりに先輩の教を解釈した新しい学説だが、真面目に考えてみる価値も少しはありそうで、我執とか信心とか、「私たちは目に見えないものを扱っている」と思っているが本当に目に見えないものなのか？ 信心はもしかしたらちゃんと形に現れてくるものなのではないか？ 反対に我執にも表情や癖や時には横隔膜の緊張のように、観察可能なものなのではないか？ 酪酊する頭と頭の中で、議論が泥沼になって、口論から手が出るようになるような信心の話はやめて、もっと、目に見えるところのことを、話してみないか？ さて、歳末勤行・除夜の鐘までの事務を含めた仕事量は机の上にたまって目に見えるので、疲弊するが具体的に良い。横隔膜が疲弊して猫背になっていく。(斎木)

三条教区通信

第125号

発行日 2018年1月1日
発行者 三条教務所長 森田成美
発行所 真宗大谷派三条教務所
〒955-0071 三条市本町2丁目1-57
E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp
Webサイト: http://sanjobetsuin.or.jp/

三条教区

謹んで新年のご挨拶を申し上げます
旧年中の御厚情に感謝いたしますとともに
本年もよろしくお願ひ申し上げます
三条教務所・三条別院職員一同

今月の法語

【真宗教団連合『法語カレンダー』より】

あみだぶつ こうみょう
阿弥陀仏は光明なり
こうみょう ちえ
光明は智慧のかたちなり

『唯信鈔文意』親鸞聖人

Amida Buddha is the illuminating light, expressing wisdom.

Notes on 'Essentials of Faith Alone', Shinran Shōnin

三条教区災害対策委員会のお知らせ

災害支援実行委員会の活動資金にご協力ください

主に春と夏の保養事業を活動内容としております災害支援実行委員会の活動資金収入であります災害救援・復興カンパ金につきまして、2017年度においてご協力いただいた金額は196,600円となりました。

御礼を申し上げますとともに、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

東日本大震災及び熊本地震については、宗派の救援金口座も引き続き設けられておりますので、教区と同様に何卒ご協力の程、お願い申し上げます。

宗派 東日本大震災救援金口座

【郵便振替口座番号】01030-4-2244

【加入者名】真宗大谷派宗務所財務部(救援金)

宗派 熊本地震救援金口座

【郵便振替口座番号】01010-0-2608

【加入者名】真宗大谷派宗務所財務部

研修会のご案内

「差別と真宗」共学研修会 開催案内同封

- ◆日時 2018年3月1日(木) 14:00
- ◆会場 教区同朋会館
- ◆講師 藤野 豊氏(敬和学園大学教授)
- ◆テーマ ハンセン病に学ぶ
- ◆講題 「戦争とハンセン病」
- ◆参加費 500円
- ◆対象 どなたでも
- ◆申込み 不要
- ◆問合せ 三条教務所(担当:西山)

教学研究会 開催案内後送

- ◆日時 2018年3月5日(月)~6日(火)
- ◆場所 教区同朋会館
- ◆講師 藤場俊基氏(金沢教区常讀寺住職)
- ◆内容 『教行信証』化身土巻
- ◆参加費 500円
- ◆申込み 不要
- ◆対象 どなたでも
- ◆受講証 第2種発行(教師陸補のために1枚必要)
- ◆問合せ 三条教務所(担当:西山)

推進員・育成員共学研修会(新潟市) 開催案内同封

- ◆日時 2018年3月12日(月) 13:30~17:00
- ◆場所 金寶寺(新潟市中央区)
- ◆講師 本多雅人氏(東京教区東京2組 蓮光寺)
- ◆対象 広く推進員・育成員の皆様
- ◆申込み 2018年2月23日(金) 締切
- ◆問合せ 三条教務所(担当:西山)

「靖国問題」基礎講座 開催案内同封

- ◆日時 2018年3月16日(金) 14:00
- ◆会場 教区同朋会館
- ◆講師 工藤和雄氏(弁護士)
宮本亮二氏(高田教区榮恩寺住職)
- ◆テーマ 信心の課題として改憲問題を考える
- ◆参加費 500円
- ◆対象 どなたでも
- ◆申込み 不要
- ◆問合せ 三条教務所(担当:西山)

首都圏在住 新潟県出身ご門徒 お彼岸のつどい 既送

- ◆日時 2018年3月18日(日) 10:00~14:30
- ◆場所 真宗会館(東京都練馬区)
- ◆対象 首都圏在住のご門徒とお手次寺院(新潟県)
- ◆申込み 2018年2月23日(金) 締切
- ◆問合せ 三条教務所(担当:西山)

■ 推進員・育成員共学研修会(佐渡市)

- ◆日 時 2018年3月25日(日)13:00～26日(月)10:30頃
- ◆場 所 ホテルニュー桂
- ◆講 師 渡邊 学氏(第23組 明正寺)
- ◆対 象 広く推進員・育成員の皆様が対象ですが、佐渡組推進員一泊研修会として開催されるため、佐渡組外の方で参加を希望される方は聴講参加となります
- ◆申込み (佐渡組以外)2018年2月23日(金)締切
(佐渡組)組内の案内を参照のこと
- ◆問合せ 三条教務所(担当:西山)

■ 声明基本講習会

開催案内同封

- ◆日 時 2018年3月27日(火)9:30～
- ◆場 所 三条別院
- ◆講 師 声明講習会部門スタッフ
- ◆対 象 どなたでも
- ◆申込み 2018年3月9日(金)締切
- ◆参加費 500円
- ◆問合せ 三条教務所(担当:天兒)

■ 教区女性研修会

開催案内後送

- ◆日 時 2018年3月29日(木)9:30～
- ◆場 所 三条別院
- ◆講 師 三明智彰氏(九州大谷短期大学長)
- ◆テーマ 「正信偈に学ぶ」～人身受け難し～
- ◆講 題 「生まれた意義と喜び―出世本懐―」
- ◆対 象 どなたでも
- ◆参加費 1,500円(昼食代を含む)
- ◆問合せ 三条教務所(担当:宇佐美)

■ 秋安居報告

第18組等運寺 塚本智秀



本年度の三条教区秋安居は、2017年12月4日から5日にかけて教区同朋会館にて開催され、44名の参加があった。

戦国期から江戸時代の思想史を専門とされる大桑齊師をお招きし、安居講録『蓮如上人御一代記聞書』試論』(以下、講録と表記)に沿って、駆け足で講じていただいた。講義は、文献研究や思想史に精通されたご講師ならではの、歴史の中での教学・教団との関わりや拝読・解釈・読解すること、社会的背景・常識ということ、私に強く意識させるものであった。

『蓮如上人御一代記聞書』(以下『聞書』と表記)は近代教学につながる清沢満之師の思想の基底となっている一

方、お聖教としての収録刊行は江戸中期の三業惑乱の頃である。元本は不明の上、ある写本の奥書によると石山合戦末期の天正八年三月に編纂とある。その文字は上人のご在世から時代的隔たりを越えて、教学・教団に影響を与え・影響を受けて今にある。

その文字を読み手がどのように拝読・解釈・読解するかが問題となること、ご講師は時間を割かれた。お聖教をありのままに受けとることは不可能であるからである。また『聞書』自体が解釈の積み重ねによって構造が複雑なため、全体構造を解明し本質を領解することなしに理解してはならないと指摘された。そのため講義自体はその解明に多くの時間を費やされた。



安居本講講師 嗣講 大桑 齊氏(大谷大学名誉教授 金沢教区善福寺)

また当時の社会的背景・常識には私の注意が引かれた。特に注意が引かれたことは贈与の視点であった。今村仁司師の贈与論をもとに、前近代は贈与と体制であり近代以降は交換体制ということから、贈与としての回向論と、帰命と往生を交換する信心(三業帰命説)に触れられた。この視点を背景に、例えば『聞書』の「仏物」・「御用」等の語から無我論が読み解かれていった(講録 本論Ⅲ・Ⅳ)。

他にも、娑婆に生まれて苦勞して人々に信心をとらせて仏となって帰っていくという本地物の世界観をもとにした「権者」(講録 本論Ⅴ)や、外部の異質の他者を客人とみる主客論によっている仏法と世間の関係(『聞書』第一五七条)(講録 本論Ⅵ)なども注意が引かれた。

予備知識なしに『聞書』に触れて心が満たされる危うさと、忘れては勿体ない世界観を知らしめてくださる講義であった。ぜひ講録を通読されることをお勧めしたい。

教務所からのお知らせ

◎退任の挨拶

謹啓 厳寒の候 皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私 儀

このたび、一身上の都合により12月28日付にて三条教務所を退職させていただきました。何かと至らぬ身のまま、教区教化事業をはじめ種々の業務に携わり、6年半に亘り職務を全うさせていただけたことは、ひとえに皆様のお育てとご寛容によるものと、心より感謝申し上げます。

今後は何処にありましても、在職中にいただいた勤務経験と、皆様方から賜りましたご指導とご恩情を糧として、歩んで参りたいと思っております。

本来ならば直接参上いたし、御礼申しあげるべきところですが、略儀ながら書中をもちまして、退職のご挨拶とさせていただきます。

敬白

2017年12月28日

藤波法英

◎法務お手伝いの募集について

新潟市中心部の御寺院で法務手伝いのできる方を探しています。ご希望の方は教務所(Tel 0256-33-2805 担当結城)までご連絡ください。

◎新年は1月9日(火)から事務を始めます

教務所事務休暇は2017年12月29日から2018年1月8日(月)までいただきます。

◎教区行事予定表 2018年

1/9(火)		教務所事務初め
1/10(水)	14:00	連絡協議会
1/16(火)	14:00	真宗学院指導会議
1/17(水)	14:00	企画委員会
1/18(木)	14:00	教化センター
1/24(水)	15:00	推進員教習部門会議
1/25(木)	14:00	教化センター
1/30(火)	15:00	青少年3部門会議
1/31(水)	15:00	声明講習会部門会議

行事日程(会場)重複防止の便宜上、教区・別院主催以外の行事が一部含まれます。また、日程は変更される場合があります。

駐在教導のつぶやき

西山郷光

教えに触れると「いままで見えていなかったけれど、ずっとここにあったもの」に出会うことがある。「ああ、これでよかったんだ」という気づき。自分の「良し悪し」の物差しで「都合が悪い」と目を背けていただけで、実はずっとそうであったものたちだ▼たとえば、それはコンプレックスである。僕にとってコンプレックスとはずっと「良くない事」で「克服しなければならぬ事」だった。否定の意味しか持っておらず、成長して乗り越えるか、成長が難しいなら耐えるか、耐えることも難しいならとあえず目を背けてやりすごすかといった、敵として対峙する方向での対応しかなかった▼あるときに、そんなことをしなくても良いのだと気づかせていただけたことがあった。実は、コンプレックスは僕の生きる原動力にもなってくれていたのである。そのまんまで、僕の喜びも教えてくれていたのだった。この気づきによって、向き合っただけで疲弊するばかりの人生から、共にいられる人生に転換した▼これは、我が身の事実を指摘下さった竹橋太先生と、そんな僕と一緒に生きようとしてくれた今の奥さんとの出会いが教

えて下さったことだった。どちらも僕の思い込みの外側からやってきた▼こうして僕は、コンプレックスとようやく出遇えたのだった▼とてもありがたい、大きな出来事だったけれど、今回つぶやきたいのはこちらではない▼「出遇えたこと」ではなく「出遇えなかったこと」のほうだ▼大学生のころ、NHKの番組で「一人の女性の生涯」を紹介する場面があった。番組名など詳細は覚えていないけれど、その場面はこんな感じだった▼…両親(AさんとBさん)から彼女は生まれた。先に兄Cがいた。彼女は成長して小学生になり、妹Dも生まれ、彼女は妹がとても大好きで、とても可愛がった。中学生になり、恋をして、高校、大学と進学し、失恋をし、仕事に就いて、Eという男性と恋に落ちて、結婚し、子どもが生まれ、彼女は母親になった。長女が2歳の時に弟も生まれ、仕事をやめて家事に専念することにした。子ども達は成長し、彼女は年を重ね、両親が亡くなり、子ども達も結婚し、じきに孫が生まれて彼女は祖母になった。その後夫と死に別れ、ついに彼女も孫たちに見守られて亡くなった。93歳だった。亡くなった後も彼女の物語はさらに続いていく。彼女の孫たちは成長し、それぞれ結婚をし、彼女にとってはひ孫にあたる子どもたちが生まれてくる。最近生まれた一番若いF君は、彼女にとっては23番目のひ孫にあたる…▼だいたい省略したけれど、こんな感じで、ある女性の一生を場面ごとに具体的に語っていた▼最後のナレーションが心に残っているのだ。「彼女のひ孫は23人います。この中に、彼女のことを知っている人間は1人もいません。」▼少し怖かったけれど、なんだか感動もしたのであった。そのままを、そのまま生きた。だから、そうです、と言える。そんなあり方を見せてもらった感じがした。語られた彼女の人生は、明朗で、潔くて、晴れ晴れしていた▼そんな感動の中、僕はドキッともし、僕も、曾祖母のことはほとんどわからない。唯一、父方の曾祖母については祖母からチラッと聞いたことがあるが、父方の曾祖父や母方の曾祖母については全くわからない。さらにその一代前ともなると、いたのかどうか定かではない。勿論いたと思うけれど、もはやそんな感覚なのだ▼また昔の事だけでなく、今、現在においても、例えば道ですれ違ったり、ほんのわずかの時間差で、僕の人生において一度も、全く出遇わない事柄が、それこそ無限に存在している▼僕たちは、出遇ったことを語る。感覚する。でも、出遇わなかったことは全く語らない。出遇って無いのだから当たり前だけれど、勿論意識すらされない。それが、なんというか、怖いですね。という話です▼出遇いの奇跡というけれど、出遇わない、という絶望的にどうしようもない事柄のとてつもない大きさが、なんとなくゾッとして思われることが、たまにあるのです▼共感いただけますか？話があっちゃこっちゃ行き過ぎですか？▼それでは今日もまた、南無阿彌陀仏

新潟親鸞学会からのお知らせ

新潟親鸞学会事務局 担当 富沢慶栄 超願寺内
〒951-8061 新潟市中央区西堀通二番町 783
Tel 025-222-2820 Fax 025-222-2830 Mail choganji@nifty.com